

参加各流派・ご担当先生

<div>みやこみしょうりゅう</div> <div><b>① 都末生流 大津光章</b> (おおつ こうしょう)</div> <div>TEL.075-761-8166</div> <div>知恩院華頂宮の指南役、藤木月亭光信により天保6年京都にて起る。昭和24年各種学校都華道専門学院を設立、「いけばな文化」を中心に「いのち」をキーワードにした、花の文化集団を目指しています。</div>	
<div>せんけいりゅう</div> <div><b>② 専慶流 西阪保則</b> (にしさか やすのり)</div> <div>TEL.075-611-0814</div> <div>江戸時代元禄、京都で流祖冒春軒仙溪によって創始される。伝承された端正なかたちに新しい作風と感性を求め、豊かな気品をたくわえてきました。四季の植物を通じて、絶えず心のやすらぎと個性的なひろがりを実現流は求めています。</div>	
<div>とうふくじみしょうりゅう</div> <div><b>③ 東福寺末生流 井田益甫</b> (いだ ますほ)</div> <div>TEL.075-572-2882</div> <div>京都東山にある東福寺を家元として、京都・大阪・兵庫に支部をおき活動しています。「華禅一味」を流の心としての「古典花」、時代の新風を取り入れた「現代花」を中心にあらゆる表現を探究している流派です。</div>	
<div>とうざんみしょうりゅう</div> <div><b>④ 東山末生流 本多栄甫</b> (ほんだ えいほ)</div> <div>TEL.075-451-8327</div> <div>西陣の地にある慧光山総本山本隆寺三〇世日東上人を流祖と仰ぎその中から取った「東」と「山」から東山末生流と称し江戸時代後期創流。末生流の流れをくみ華道を通じた人格形成と精神鍛錬を掲げ正華盛花投入意匠花等古典を軸に現代いけばなをも探究している。</div>	
<div>えんしゅう</div> <div><b>⑤ 遠州 芦田一春</b> (あしだ いっしゅん)</div> <div>TEL.077-575-4488</div> <div>小堀遠州を流祖とし、1812(文化9)年初世貞松齋一馬が「衣の香」口伝抄を刊行、流を確立、発展させた。現代に伝わる伝統流派の一つであり、その美しい曲線美は日本のいけばなの代表的なものです。</div>	
<div>おむろりゅう</div> <div><b>⑥ 御室流 野々田美水</b> (ののだ びすい)</div> <div>TEL.075-463-1095</div> <div>世界文化遺産仁和寺を創建の第59代宇多天皇を流祖とする流派です。仁和寺は中世には名匠、技芸線達者に称号を授与し、近世その称号をもつ華道家が集い御室流となりました。古典技法と自由ないけばな表現を伝承し、花を通じ豊かな感性の涵養(かんよう)、人格形成をめざしています。</div>	
<div>しょうげつどうこうりゅう</div> <div><b>⑦ 松月堂古流 植松赏月</b> (うえまつ しょうげつ)</div> <div>TEL.075-721-0515</div> <div>松月堂古流のいけばなは、自然を厳しく観察することに始まり植物本来のあるべき姿を探究することでより美しく表現するよう心がけています。生花・現代花・流麗花など様々なスタイルでいけばなの美をお伝えする努力をしています。</div>	
<div>きょうふうりゅう</div> <div><b>⑧ いけばな京楓流 小嶋範彦</b> (こじま のりひこ)</div> <div>TEL.075-612-7728</div> <div>花祖は禁裏御所御用の折、楓(かえで)を挿けて号を賜ったと伝わる。先代家元・小嶋京楓が1975年に流派として確立。古典から現代花まで、おおらかに、その場の風情や空気に応じて活ける「今様いけばな」の在り方を追求しています。 URL http://www.kyufuu.com/</div>	
<div>こうしゅうりゅう</div> <div><b>⑨ 甲州流 宮本花抱</b> (みやもと かほう)</div> <div>TEL.0774-72-0918</div> <div>華道甲州流は明治三十五年正月、大和郡山城旧柳澤藩士野村静吾が聴松庵拈華一世として創設以来、第六世に相伝され大和郡山で育った華道流派であります。流名は柳澤ゆかりの甲斐守義山公にあやかり流派名を甲州流と名付けました。「格花」「投入れ」を基本に、「自由花」「盛花」等あらゆる花に取組んでいます。</div>	
<div>いけのぼう</div> <div><b>⑩ 池坊 城野真理子</b> (じょうの まりこ)</div> <div>TEL.075-231-4922 (一般財団法人 池坊華道会)</div> <div>華道家元池坊は、聖徳太子が創建した紫雲山頂法寺(六角堂)から始まり、初代住職の小野妹子から数えて約1400年の歴史があります。花をいけること。花を美しいと感じること。それは自然を大切にし、人を想う気持ちにつながる、池坊いけばなの精神そのものです。</div>	
<div>くわはらせんけいりゅう</div> <div><b>⑪ 桑原専慶流 桑原仙溪</b> (くわはら せんけい)</div> <div>TEL.075-221-2950</div> <div>野に咲く花のあるがままの美しさを器にうつしとりたいという気持ちから桑原専慶流のいけばなが生まれました。三百数十年の歴史の中で、理知的な気風に品格がそなわり、花の姿を優雅に表現します。</div>	
<div>きょうかでん</div> <div><b>⑫ いけばな京花傳 手嶋敏和</b> (てしま としかず)</div> <div>TEL.075-354-6380</div> <div>いけばなを通じて情操教育の醸成と「暮らし花を 心に潤いを」をテーマに現代に生きるいけばなを本質に活動をしています。京の伝統と雅を重んじながら、新しい感覚を取り入れるいけばなを目指しています。</div>	
<div>ほそかわみしょうりゅう</div> <div><b>⑬ 細川末生流 岡本陽甫</b> (おかもと ようほ)</div> <div>TEL.075-231-0701</div> <div>創流は文化・天保年間に遡るが、口伝として伝承を続けた精神・技法を細川末生流として十九世紀末に発表。当流では、生花を基本に、投げ入れ、盛花、またお茶花など、現代の生活文化に根ざしたいけばなを提案している。</div>	
<div>かどうほんのうじ</div> <div><b>⑭ 華道本証寺 中野恭心</b> (なかの きょうしん)</div> <div>TEL.075-571-2838</div> <div>立華創成期の立華の名手であった大住院以信を流祖と仰ぐ。古典を尊重しつつ、コンテンポラリーな作風を求める。いけばなの中に自分の個性を見つけ出し、生けられた花は自分を映し出す鏡となる。</div>	

令和4年7月15日(金)・16日(土)・17日(日)

祇園石段下から四条烏丸

<div>きょうとみしょうりゅう</div> <div><b>⑮ 京都末生流 松本 司</b> (まつもと とつかさ)</div> <div>TEL.075-256-1456</div> <div>創流130有余年、第四世家元は、花と人の出会いを大切に、受け継がれてきた伝承を現代に生かしつつ「楽しむ花」を信条としています。一人でも多くの人とその楽しさを分かち合いたいと思っています。</div>	
<div>そうげつりゅう</div> <div><b>⑯ ②② 草月流 花崎陽文</b> (はなざき ようぶん)</div> <div>TEL.075-313-7880</div> <div>草月流は、「いつでも どこでも 何でも活ける」事を理念にしています。その理念の元に、様々な場面での作品を植物や異質素材を使って展開致します。</div>	
<div>つきのわみしょうりゅう</div> <div><b>⑰ 月輪末生流 平林朋宗</b> (ひらばやし ともそう)</div> <div>TEL.075-531-7676</div> <div>昭和初期の創流。東山の月輪山にある皇室の菩提所、泉涌寺靈明殿への献花に始まり、古典花をはじめ、現代感覚の盛花、投げ入れ花、自由花などがあり、品性あふれる、優雅な精神に基づいたいけばなを追求する。</div>	
<div>みしょうりゅうささおか</div> <div><b>⑱ 末生流笹岡 笹岡隆甫</b> (ささおか りゅうほ)</div> <div>TEL.075-781-8023</div> <div>1919年、笹岡竹甫が創流。花の設計図にあたる寸法表を用いた理論的な教授方法により「理論派の華道」。また、かきつばたを流花とすることから「かきつばたの笹岡」とも呼ばれる。 www.kadou.net</div>	
<div>ほうふうえんしゅうりゅう</div> <div><b>⑲ 峰風遠洲流 平尾熙峰</b> (ひらお きほう)</div> <div>TEL.06-6621-1623</div> <div>小堀遠州公の流れを頂き師ゆかりの地近江に大正13年創流。流祖口伝の挿花を基礎とし、古典花から自由花に至る迄「真・善・美」を追求。伝統を重んじつつ時流にあったいけばなに取り組んでいます。</div>	
<div>こまつりゅう</div> <div><b>⑳ 小松流 中村展山</b> (なかむら てんざん)</div> <div>TEL.075-464-3877</div> <div>昭和初期に流祖竹風斎展山が、京都市にある衣笠山を受した事から、麓にある小松原に庵を起こし、その地名をとって小松流として創流。自然花材を素材として、伸び伸びと咲く花の姿を優雅に、四季折々に色彩豊かに表現する。</div>	
<div>おはらりゅう</div> <div><b>㉑ 小原流 赤尾牧子</b> (あかお まきこ)</div> <div>TEL.090-8236-2901</div> <div>西洋文明の入って来た明治、彫刻家でもあった初代小原雲心が水盤に花を飾る“盛花”を創案。現五世宏貴家元は、瓶花・文人調・琳派調・花舞・花意匠等を追求。現代空間にふさわしいいけばな花奏(はなかなで)を創案。</div>	
<div>きどうみしょうりゅう</div> <div><b>㉒ 喜堂末生流 杉崎翠山</b> (すぎさき すいざん)</div> <div>TEL.075-711-2255</div> <div>自然の法則に基づき植物の生い立ちを学び、末生の清心を受け継ぎ伝統ある花形から現代的な自由花にいたるまでを基本花形に基づき、合法的に生花の心髄を極め美しい調和が生まれ、親しみのある流儀であります。</div>	
<div>さがごりゅう</div> <div><b>㉔ 嵯峨御流 辻井ミカ</b> (つじい みか)</div> <div>TEL.075-871-0071</div> <div>平安時代、嵯峨天皇が大覚寺大沢池の菊ガ島で手折られた菊を挿花され、「後世花を生くるものは宜しく之を以て範とすべし」と仰せになられたことが源となり、嵯峨天皇の自然といのちを愛する大御心を伝えている大覚寺に華道総司所をおく流派です。</div>	
<div>いっこうりゅう</div> <div><b>㉕ 一光流 梅田一茜</b> (うめだ いっせん)</div> <div>TEL.0743-59-2063</div> <div>四季折々の草・木・花の美を真剣に見つめ、どのような場所に飾っても調和する様、たえず研鑽し続けています。また、その花たちをよく知るために一光流一筆画も提案いたしております。</div>	
<div>こうふうりゅう</div> <div><b>㉖ ②⑦ 香風流 村田香風</b> (むらた こうふう)</div> <div>TEL.075-461-6822</div> <div>1931(昭和6)年創流。自然体を中心に簡素の美を基調とした、自由で創造性豊かないけばなをめざす。限られた空間に、景色をいけばなで表現する盆景花が流儀花。ほかに盛花・投入花・生花・飾花の花型がある。</div>	
<div>らくようみしょうりゅう</div> <div><b>㉘ 洛陽末生流 山中 樹</b> (やまなか みき)</div> <div>TEL.075-862-7786</div> <div>明治36年創流。昭和末期より花形を理論的に系統化、平成以降は新たな視覚表現による現代花や小品花等、私たちの今生きる、その「時」人の「心」を大切に、いけばなを追求しています。</div>	
<div>くさかべりゅう</div> <div><b>㉙ 日下部流 日下部一如</b> (くさかべ いちにょ)</div> <div>TEL.075-341-0046</div> <div>1966年創流。型にとらわれず、自然の枝振りに応じて自由に生けられる「真華」を創始した。人間が本来持っている感性を生かす花、老若男女を問わず、いつでも、どこでも、誰でもが自由に楽しめる花を目指す。</div>	

祇園祭の京に、一服のやすらぎ。各流派のいけばな29作品、一堂に集う。

京都では祇園祭に「檜扇<sup>ひおうぎ</sup>」を生ける伝統があります。

「檜扇」はアヤメ科の植物で、夏に色鮮やかなオレンジや黄色の花を咲かせます。良質な「檜扇」が京都府北部の宮津市で生産されています。剣状の葉が重なり合って左右に広がっている形状が「扇」に似ていることから「檜扇」の名前があるようです。古代、「檜扇」には害虫を払い五穀豊穰をもたらすといった、災厄を除く故事が見られるようで、いつの頃からか、疫病を鎮めるために始まった祇園祭の時期に「檜扇」を飾る慣習が根付いたと考えられます。現在も京都の町には、この時期「檜扇」が生けられ、軒先を彩っています。このような伝統から、祇園祭のこの時期にいけばな展を開催しています。

いけばな展示店一覧

祇園商店街・北側

①

家傳京鈴・茶房 祇園小石

[営業時間] 10:30～17:00

TEL.075-531-0331

②

かんざし・椿油 かづら清老舗

[営業時間] 10:00～18:00

TEL.075-561-0672

③

和風のあかり 三浦照明

[営業時間] 9:00～17:00(17日は定休日)

TEL.075-561-2816

④

薫香・線香・念珠 豊田愛山堂

[営業時間] 10:00～18:00

TEL.075-551-2221

⑤

化粧小物 よーじや 祇園本店

[営業時間] 11:00～18:00

TEL.075-541-0177

⑥

和菓子・茶房 鍵善良房

[営業時間] 9:30～18:00

TEL.075-561-1818

⑦

京つけもの 京つけもの大安

[営業時間] 10:30～20:00

TEL.075-531-7758

⑧

呉服・細貨 むら田

[営業時間] 11:00～17:00

TEL.075-551-3456

⑨

和装小物 井澤屋

[営業時間] 10:30～19:00

TEL.075-525-0130

⑩

レストラン レストラン菊水

[営業時間] 10:00～22:00

TEL.075-561-1001

四条繁栄会・北側

⑪

創作園履物 伊と忠

[営業時間] 11:00～19:00

TEL.075-221-0308

⑫

京ごふく ゑり善

[営業時間] 10:00～18:00

TEL.075-221-1618

⑬

京料理 四条 御旅町 田ばと

[営業時間] 11:30～21:00

TEL.075-221-1811

⑭

茶道具・漆器 龍善堂

[営業時間] 11:00～18:00

TEL.075-221-2677

⑮

つげ櫛 十三や

[営業時間] 10:30～19:30

TEL.075-211-0498

お願い	新型コロナウイルス感染症対策の上、お越しください。
	店内の作品をご覧いただく際は、お店の感染対策ルールにご協力をお願いいたします。
	※感染状況によっては参加店が休業や時短営業となる場合もございますことをご了承ください。

16

甘栗 林万昌堂

[営業時間] 10:00～19:00 (17日のみ9:00オープン) TEL.075-221-0258

17

布地販売 ノムラテラー

[営業時間] 10:00～19:00 TEL.075-221-4679

18

京人形 田中彌

[営業時間] 10:00～19:00 TEL.075-221-1959

19

大丸京都店

[営業時間] 10:00～20:00 TEL.075-211-8111

四条繁栄会・南側

20

京都信用金庫本店

[営業時間] 9:00～15:00 ※ TEL.075-211-2111

21

京都中央信用金庫四条支店

[営業時間] 9:00～15:00 ※ TEL.075-211-6141

22

化粧品 cosmetics池善

[営業時間] 10:30～19:30 TEL.075-343-2323

23

高島屋京都店

[営業時間] 10:00～20:00 TEL.075-221-8811

24

袋物・小物 俵屋

[営業時間] 10:00～18:00 TEL.075-221-2789

※ 21 16日(土)・17日(日)は定休日ですが作品はご覧いただけます

祇園商店街・南側

25

京つけもの 京つけもの西利

[営業時間] 11:00～18:00 TEL.075-541-8181

26

茶寮 茶寮都路里

[営業時間] 10:30～19:00 TEL.075-561-2257

27

宇治茶 祇園辻利

[営業時間] 10:30～19:00 TEL.075-551-1122

28

志ば漬の里 土井志ば漬本舗 祇園店

[営業時間] 10:00～20:00 TEL.075-525-6116

29

京菓子 京煎堂

[営業時間] 11:00～18:00 TEL.075-541-1141

祇園祭にいける

